

実が結ぶ前まで

マタイによる福音書13:1~9、18~23

ある人がキリスト教に触れてから、信仰の人になるまでには、その間で多くのことが起こるのだと思います。それは過去も今も同じでしょう。礼拝に出席するようになったきっかけ、信仰を持つようになったいきさつ、信仰生活の中で恵みを経験した証(あかし)など... このようなことを通して、主は信徒たちを導いて来られ、この導きの中で、教会が建てられました。これは、今の私たちにとっても同じです。私たちにも私たち自身が持っているきっかけと証、信仰告白などがあります。そして、このようなものの上に、今の飯能ルーテル教会が建てられたのだと思います。

皆さんも経験なされたことなので、よくご存じだと思いますが、ある一人が信仰の人になるまでの過程は、決して簡単ではありません。皆さんも、今、ここに来るまでに多くのことが起こったでしょう。明らかなことは、今の皆さんになるまでに、神さまの導きがあったということです。すべてが偶然のようで、自分の選択の結果のようですが、その中には、神さまの摂理があります。そして、その摂理の中で、私たちは、今日もこのように集まって礼拝をささげているのだと思います。

今日の福音書は、私たち信徒たちには、よく知られている御言葉です。

そして、一般的に、この御言葉は、良い土地に視点が当てられています。イエスさまの言葉が良い土地、つまり、言葉を聞いて悟る人に蒔かれると、百倍、六十倍、三倍の実を結ぶということです。しかし、そうでない人、良い土地ではない人には、実が結ばれません。イエスさまの御言葉は聞きましたが、悟ることはできなかつたからです。一般的な解釈から見ると、この福音書の言葉は、人々を大きく二つの部類に分けています。実を結ぶ人とそうでない人です。そして、その中心には悟るという言葉があります。悟るという言葉の意味は、理解して、真の意味をはっきりと知るということです。そうしたら、悟るためには必要なものがあるでしょう。神さまの言葉を事前に知っておくべきです。知らなければ、悟ることもできないでしょう。

イエスさまの時代の人々は、御言葉について事前の知識が十分でした。

彼らは、毎週会堂で神さまの言葉を聞き、親とラビから律法を学びました。私たちが私たちの歴史をよく知っているように、彼らは神さまが自分たちの先祖に行われた歴史、預言者の言葉などをよく知っていました。彼らは、イエスさまの言葉を聞いて悟ることができる環境を持っていました。イエスさまの言葉を聞いて、判断を下すことが可能だったということです。そして、そのような彼らに要求された言葉が、悟って良い土地になりなさいということだと思います。しかし、私たちは違います。事前の知識もなく、環境も文化も違います。神さまの言葉を一度も聞いたことのない人も多いです。だから、私たちはこの言葉を、当時の人々に与えられた言葉と同じ意味だと思って、解釈してはならないと思います。

この福音書が言っているのは、良い土地は、多くの実を結ぶということです。

これは変わらない教えです。だから、私たちは良い土地にならなければなりません。しかし、この言葉がよい土地とそうでない土地とを分けるもの。悟る人はいいい人で、悟らない人

は悪い人だなどと使われてはいけません。そして、私たちが認識しておかなければならないのは、当時の社会と私たちの社会が全く違うということです。さらに、この言葉は、弟子たちも、すぐには悟らなかった言葉でした。だから、イエスさまは、今日の福音書18節から弟子たちに、このたとえを説明してくださいました。当時、この言葉を聞いた人々は、いくつかの部類の人々を思い出したのだと思います。イエスさまに反対する人々と信仰を捨てた人々、そしてイエスさまに従っている自分たちだと思います。しかし、今日でのこの言葉は、真の信仰の人になっていく過程と、神さまの恵みとして解釈されることも悪くはないと思います。

牧師館の隣には、小島さんという隣人が住んでいます。

その方の趣味は農作ですが、たくさんの農作物を植えて、収穫しています。おかげで、新鮮な野菜をいただいて食べています。皆さんも、しばらく前に小島さんが収穫なさったジャガイモをもらったでしょう。小島さんは、収穫が終わったら収穫した所を掘り起こします。肥料を施して、地に栄養を与えます。そして、そこに季節に合わせて、他の作物の種を蒔きますが、必ず、きれいに掘り起こした地に種を蒔きます。良い土地ではない場所には、種を蒔きません。このように、一般的に農家の人は良い土地ではない場所には、種を蒔きません。

ところが、今日の福音書での農夫は良くない土地にも種を蒔きます。

道端にもまき、石だらけのところにもまき、茨の中にも蒔きます。良い土地ではないところに蒔いた種は、実を結ぶことができないということ、農夫は誰よりもよく知っているでしょう。それにもかかわらず、農夫は等しく種を蒔きます。無駄になることを知っていますが、種をまくことを止めません。私は、この種を蒔く農夫を通して、神さまの恵みを感じることができました。神さまは、誰にでも公平に御言葉を与えてくださいます。そして実を結ぶのは、全く人が御言葉を受け入れて悟ることにあります。御言葉を悟る人は、多くの実を結び、そうでない人は、実を結ばないのです。しかし、悟らないとしても、神さまの言葉が蒔かれないわけではありません。神さまは続けて、ご自分の恵みを、ご自分の言葉を、私たちに与えてくださいます。

私たちは、毎週日曜日に教会に来て、神様の言葉を聞いていますが、自分の都合と心の状態によって、神様の言葉が聞こえたり、聞こえなかったりしています。御言葉を聞いて実を結ぶ日もありますね。しかし、心配と不安が神様の言葉をふさいで、芽が伸びないときもあり、神様の言葉を聞いていますが、自分の考えにより、受け入れられない時もあります。それにもかかわらず、神様はいつも公平に種を蒔いてくださいます。私たちが聞いても聞かなくても、私たちの心がいばらでも良い土でも、神様は常に御言葉の恵みを与えてくださいます。これが今日の福音書が、私たちに与える福音だと思います。

実が結ぶ前まで、私たちには多くのことが起こるのです。

しかし、このすべての過程は、神さまが私たちを良い土地に作られる摂理の過程だと思えます。そして、良い土地になった私たちを通して、神さまは多くの実を結ばれるのです。私たちを通して御国の福音が宣べ伝えられ、教会が成長し、私たちの隣人が祝福を受けるのです。神さまの摂理の中で、百倍、六十倍、三十倍の実を結ぶ私たちになるのです。これを信じて従う皆さんに豊かな実が結ばれるように。私たち飯能ルーテル教会が良い土地になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン。